春まだき

（３）
（中学３年一学期一冊目）

柊実 真紅
（とうみ・まこ）
ａｓ
霧樹里守 ｉｓ 土岐真扉

目次

中学三年　①　詩のノート、日付なし。
中学三年　①　詩のノート、日付なし。 3
【　移転　の　お知らせ　】 4
クラスがえ 5
. 7
. 9
時計 10
詩？ 11
. 12
. 13
. 14
. 15
. 16
春 19
分子原子陽子電子 20
マラソン 21
. 22
むかしは、 23
. 24
. 25
. 27
. 28
. 30
. 31
. 32
ブラックホール。 33
. 34
. 35
. 37
. 38
. 39
. 40

. 41
. 42
. 43
涙 44
安部公房 48
. 50
. 51
いいなあ 52
授業 53
. 54
. 55
. 57
. 58
メッセージ　from　S.54.5.18-19 60

奥付
奥付 67

中学三年　①　詩のノート、日付なし。

問三中 ③ 前のページ、合わせる。

中学三年　①　詩のノート、日付なし。

中学三年 ① 詩のノート

（日付なし）

【　移転　の　お知らせ　】

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

　初版の　もとい　諸般の事情により、

　以下に　移転しました。

（詩集１）　　『　春まだき　』

https://novelpia.jp/novel/3935

（２０２３年０３月０３日０７時３７分）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

クラスがえ

クラスがえ

クラスがえ

なじめない

新クラス

嵐のあと

暑い朝

また一人

机の前

みんなもう

それぞれに

友達が

いるのです

クラスがえ

クラスがえ

なじめない

新クラス

また、一人で 一年間……

クラスが変わって

はじめての人達の前で

マンガのノートを取り出すのは

とても

難しい

それを開いたら

未知への扉を開いたら

また

友達ができないのを

知っているから

恐れているから

奇異な目で見られるのが

とても恐いから

のろのろとノートを取り出し

目の前でバタバタやりながら

開けない

どうしても

わたし

こわいから……

人は皆

わたしの親切に対して

まゆをしかめ

舌打ちをし

一言の礼も言わずに

くるりと背を向ける

なぜこうも

私という人間を

皆で

きらうのか。

時計

「本鈴三分前です」と言われて

時計はがんこに十六分をさしていた

それから三分たって

時計は十九分を指していた

少しして本鈴が鳴った

だれかがあわてて 三十分になおした

詩？

わたしは詩を書いているはずなのですが

心を書いているわけではないようです

心を書いていないということは

感動を書いていないということで

感動がないということは

それは詩ではないということで

ではいったい

わたしは

何を書いているんでしょう？

にこやかに

笑っていると

思った瞬間に

どなりだす。

いやだけど

それが

わたしなのです。

友達が欲しい

友達が欲しい

本も服も何もいらない

ただ

友達が欲しい

一人はきらい

一人はきらい

受験や男子や他の何より

ひとりぼっちは

大きらい

あそこに美人で頭のいい人がいる

ここに

頭も 顔も

悪い人間がいる

あちらはみんなに好かれ

こちらはみんなにきらわれ

ああ

ホントに 世の中は

不公平

山のすそ野に さしかかり

道を探して 足迷う

いまだ 頂（いただき）見えずとも

いつかこの上 山の上

空をあおいで 立たんとて

一人 高みに 立たんとて

いつか この上いつの日か

心に念じて 足 運ぶ

足をすべらせ 落ちようと

霧に 迷って 泣こうとも

いつか 高みに 着くだろう

いつか 頂見えるだろう

心に念じて 足運ぶ

一歩一歩 と 足運ぶ

わたしは 山に 登りたい

※ 対歌 http://85358.diarynote.jp/201003261350349086/

待っても 救いが 来ないなら

さあ あきらめて走りましょう

半そで 短パン ただ一人

先頭きって 走るのは

わたしにとっては むずかしい

だれかいっしょに 走ってよ

だれかいっしょに 走ってよ

待っても救いはあらわれない。

探して 友が いないなら

さあ あきらめて 書きましょう

まわりでわいわい 級友の

さわぎを 聞きつつ ただ一人

孤独をまもって すわるのは

一人の わたしにとてもつらい

だれかわたしに ほほえんで

だれかわたしに ほほえんで

わたしは 友を持ちません。

泣いても心が晴れぬなら

さあ 起きましょう 涙をふいて

ぬれた枕も いつかはかわく

涙は心の汗という

わたしもいつかは 笑うだろう

だれかわたしと 歩きましょう

だれかわたしと 歩きましょう

涙で心がぬれるなら。

耐えても嵐がすぎぬなら

歯をくいしばって こぎましょう

人の うわさもよんじゅうくにち

さらに かけても ７年間

男子もいつかは だまるだろう

だれもわたしは憎みません

だれもわたしは 憎みません

いつかは 嵐も すぎるでしょう

すわって 明日（あした）が来ないなら

さあ 立ち上がって 歩きましょう

暗くて 道が 見えぬなら

星が 方向 示すでしょう

いつかは 夜明けに なるでしょう

春

チューリップ

いちりん

真っ赤

桜

林に

真っ白

空

雲に

真

っ

青

風

野原に

金色

分子原子陽子電子

** 陽子が男で電子は女 **

** 原子は一つの家庭です **

** プラスのイオンは妻に逃げられ **

** マイナス・イオンは ** ** 妻妾同居。**

マラソン

心臓は元気で

足は ばてた。

心は平気で

頭は ばてた。

あと何周？

難しい事が 多すぎるっていうのに

理解するには 時間がない

やりたいことが多すぎるし

そのために必要な事を

理解して おぼえる時間も

そのために必要な物を買うお金も

ないない！ ない!!

ただでさえ たりないものを

ただでさえ 短かすぎる人生を

なんで 受験勉強 なんかに

使わなければならないんだ !?

むかしは、

むかしは

幸福や自然の詩（うた）しか 書けなくて

自分の心を書く なんてことは

思いもよらないことだったのに

いまでは

感動した心や 悲しい心を

そのままノートに書きつけるほかは

幸福も 自然も

なにも書けない

なぜでしょう

それは

見る人が いなくなったから

見せる人が いなくなったから。

だれかが「 いいなあ 」と言った。

「 ツッコは 頭がよくて いいなあ 」と 言った。

「 行きたい 高校に行けるでしょう 」とも 言った。

(もっとも 行けやしないのだ けど ..... 。)

でも でもね。

たとえどんなにいい高校にうかったとしてもね、

わたしは 一人で 行かなきゃ いけないのよ

肩をならべて歩くような

そんな

友達が

いないんだもの。

だれかを愛したい

だれかに愛されたい

そう 願うのは 不自然だろうか

友を持たない 私にとって!?

その相手は だれでもいい

ただ生きている人間ならば。

さびしい時に そばにいて

二人 話し合う 仲間がほしい

悲しい時に そばにいて

肩を抱いてくれる 人が ほしい

人を愛することができず

人に愛されることもなく

ただ 一人で座っていて なんで

なんで 話が 書ける !?

なんで生きている !?

愛されなくてもいいから

せめて だれかを 好きになりたい !!

** 独裁者が民主政治をおこなうほど **

** こっけいなものはありません **

** 先生が生徒の意見に左右されるほど **

** 時間のむだは ありません。**

愛するということは

ただひたすらに相手の幸福を願うこと

自分が傷つくことも

自分が失恋することも

すべて がまんして なお

相手が幸福であるようにと願うこと

相手が幸福でありさえすれば

すべての苦痛も苦痛と感じないほどに

ただ ただ相手の幸福を願うこと

ところがわたしときたら

自分が傷つくのがこわい

自分を犠牲にするのはいや

自分一人がかわいい

だから

そんな自分が大きらい

わたしはだれ一人として愛さず

そして

そんな自分自身をも 愛しえない。

*笑いものになるのは **耐えられない *

* さげすまれるのも *

* まっぴらだ *

* 人をそんなに気軽につかうな *

* 冗談の種になるのは *

* ごめんだ。*

* やめろ！* **やめろ**!!

わたしを笑うやつらは一切合財

世界中で

消えてなくなれ！

わたしは異質な人間である と

悲しみをともなった確かな感覚で

はっきりと感じています。

知らなければ

気づかなければ

自分をあざける必要もなかったでしょうに

ただ気が狂ってさえいれば

世の中と自分の内部とのずれに

気づく必要もなかったでしょうに.....

でもわたしは気づきました

悲しい現実として

それを知ってしまいました

わたしは異質の人間です

では

どうすればよいのでしょう？

生まれたものには

終わりがあるし

今あるものは

いつか

生まれたもの

つまり

今あるものの

すべてには

いつか必ず

終わりがある

ブラックホール。

ものは熱をもって生まれ

ふくらむ

ふくらむ

ひ ろ が る

熱は

ひえていく

熱が

ひえきる寸前に

それは

ちぢむ

そして

ちぢんだ分の熱で

自らを

火葬にする

目の悪化がどんどんひどくなっていきます

書くのをやめて悪化をおくらせるべきか

見えなくなる前に 少しでも書くべきか

ふつうなら 書くのをやめるのですが...

なんて書いたら いいのか

わからないけど

二時間目

英語の時間に先生に

だれかが消しゴムなげつけた

だれも名乗り出ない

先生は怒る

当然だ 当然

授業は中断

先生はもうやらないと言う

しかたなく星野が名乗りでた

彼じゃない

彼じゃない

彼ならすぐに言うだろう

冗談ごかしで言うだろう

たぶん授業をつづけようとして

だれかの身代わりになったんだ

先生 先生 彼じゃないよ と

言えないわたし

言いだせない わたし

みんな先生の処置にさからう

反抗して

あざわらう

なんで こんなことになるんだ !?

権利と義務

権利と義務

*義務ばっかり** 果たして *

権利は

いつ

* 手に入るんです !? *

これ以上滅入ったら

浮き上がるのが難しいなあと

思っているはしから ごていねいに

滅入りそうな曲が

次々かかるね

席がえはきらいだ

いつも同じ目にあうから

わたしのとなりにきたやつみんな

なんだかんだで逃げるから

席がえはきらいだ

一人で

悲しいから、

書いているということは

わたしにとって

非常に大事なことです

書いていれば 忘れない

書いていれば 考えられる

書いていれば心が落ち着く

書いていれば 夢がある

そして

生きていられる。

- 新人類 *

- なんかじゃない *

- 別種の人間 **じゃない *

- ロボット** じゃない *

- 起重機（ジェニー）* じゃない

  わたしにだって

  心があるんだ !!

学校なんか大きらい

学校なんか消えてしまえ

男子なんか

いっさいがっさい

まとめて

まるごと

なくなってしまえ！

わたしに触れるな

まわりでさわぐな

放っておいてよ

バカにされるよりは

無視された方が

ましだわ !!

涙

知らないでしょう

わたしがあなたたちを好きだということを

あなたたちが騒ぐたびに傷つけられるのは

このじゃまっけなプライドのせいではなく

好きな人たちから

きらわれているせいだということを

わたしはほんとうに

あなたたちを愛しています

あなたたちが悩みのない

ごくふつうの人間であるゆえに

あなたたちがお互いに

好きあい

友を持っているというだけで

ああ

ほんとうに

わたしはあなたたちが大好きです

あなたたちにあこがれています

わたしにとってあなたたち 少年は

むしろ まぶしくさえ あるのです

こんなことを書き 想っていると あなたたちが知ったら

さぞかし薄気味悪く

またそらぞらしく思えることでしょう

でも

これこそが真実なのです

(わたしは

文章を書くという才能を

わたしにさずけて下さった 神に

ただ ただ 感謝するしかありません

さもなくば わたしという人間は

とうに自殺するか

あるいは 自らを狂気へと

かりたてていたでしょうから)

なぜ あなたたちは

他の少女たちとするように

わたしに話しかけてはくれないのでしょう

あなたたちのなにげない一言が

どれほどわたしを喜こばせ

また 傷つけていることか

あなたたちのだれもが知りもせず

考えてくれたことすら ありませんね

わたしは

これを書き出す前に泣いていたのです

ベッドの上で涙ながして

（わたしに涙があるということすら

あなたがたのだれもが知りゃしない ）

ほんとうに

ひとりぼっちのわたしに対して

あなたたちのしうちは冷たすぎると

思いませんか？

考えてもくれませんか？

それとも

やはりわたしが悪いのでしょうか

だとしたらせめて一言

注意してはくれませんか

なにを言われたとしても

今以上に傷つくことなど

考えられないことですから

態度がわるいとか

気にくわないところがあるのなら

できるかぎりあらためます

だから

せめて一言

わたしに話しかけて下さい

安部公房

おねえちゃんにも通じない

お母さんにも通じない

どこのだれにも通じない

行き場のない

わたしの心

（ 通じるとしたら

わたしの内なる

わたし自身の分身にだけ ）

ひっくりかえって

裏がえって

自分自身を

裏がえしにして

どこかへ

遠くへ

行ってしまいたい

消えてしまいたい

なにかに −−

変わってしまいたい。

こんな気持ちで物語なんて書けない

こんな気持ちで

神や

その行いの意味を書こなんて

とっても

とっても

……

バカバカしいや

悲しくて

涙があふれているのに

それまでを

冗談のたねにするなんて

あんまりひどいじゃない

せめて

泣くことくらい自由にさせてよ

今のわたしにのこされた

ただひとつの

ことなんだから

いいなあ

いいなあ

男子っていいなあ

ほんとうにお互いが

ほんとうに

好きなんだ

いいなあ

男子っていいなあ

友達っていいなあ

うらやましいや

授業

そーか そーか

作文なんだ

これは

作る文なんだ

作られた文なんだ

作られた

ことば.....？

ことばって おどりでるもの

ことばって わきあがるもの

ことばって

自然に

ああ

からだのなかから

走り出すもの

そーか そーか

作文なんだ、これは。

なんて悲しいことでしょう

なんて悲しいことでしょう

ほかのみんなは 男子も女子も

みんな仲良く 話しているのに

わたしだけが悲しい

わたしだけがさみしい

みんな仲良く話しているのに！

わたしだけが 一人だけ

一人だけは わたしだけ

たった一人のわたしだけが

男子からも 女子からも

はみだしてしまって

押し出されてしまって

話すこともできない。

わたしは逃げたい

受験から

勉強から

わたしの時間を 潰すものから

わたしは逃げたい

成績から

高校から

わたしの頭を 悩ますものから

そして

わたしは逃げたい なによりも

男子と

「キャメイ」の称号と

わたしを一人に

させるものから

.....たとえ そのために

受験と 高校とに

がんじがらめに

されようと……

この美しい 風景を

かつてだれかも 見たのだと

自分と同じ 心を持った

自分と同じ 一人の人が

かつて美しさを 見たのだと

見て同じことを 思ったのだと

生まれて思って 見て生きて

時の流れに 涙して

いつか だれにも忘れられ...

この美しい風景を

かつてだれかも 見たのだと

わたしのあとにも まただれか

時を思って泣くのだと

思って生きていくのだと

思うだけで.....

書きたいことは 人間

考えたいことは 矛盾

愛と憎しみ

幸福と不幸

理想と現実

社会と個人

生と死と

時の流れと戦争と

自然と故郷と悲しみと

そしてなにより

生きることの意味

どこから来てどこへ行くのか

一人一人幸福を願いながら

なぜに平和が来ないのか.....

書きたいことは人間の生き方

考えたいことは 人間の 心

愛し 憎しみ 泣き 笑い

傷つき 時には血を流し

迷い ざ折し 救いを求め

ふりむきつつも 一歩づつ

なぜに前へと進むのか

書きたいことは わたしの想い

考えることは本当のこと

神の存在 わたしの使命

原点 終末 未来について

魂 輪廻 神話や伝説

時の流れや 存在の意味

真理とそして 宇宙の外側

深くて 大きい ものたちのこと

書きたいことは わたしの願い

考えたいことは 幸福のこと

http://85358.diarynote.jp/201102101059084570/

メッセージ　from　S.54.5.18-19

早くもこのノート終わったんだけど、

三月末からの二ヶ月間でずい分進歩した

ものだなあと読みかえしてみて自分でも驚いてる。

まえみたいな自ぼう自き的な ひらきなおりでなしに、

本心からみんなを好きになることができたってことは

わたしにとって とてもうれしいことなの。

いずれこの記憶もうすれて 次の生を受ける時には

クラスも男子も 地球のことも 覚えていないのでしょうけど

こうした想いだけは 心の奥深い ところに ” 公式” として 残るでしょう。

「し練のない生活 これが最大の し練である」って言葉があったけど

マーシャやサキにくらべればまるで笑い話しみたいな（むろん れんちゅうは そんなこと言わんけど）

生活の中から、これだけの事を つかめたってことは じまん（ !? no（ノー）!! ）、自分にほこりを

持ってもいいんじゃないかな。(わ〜〜!! 実を言うと試験勉強中なのよ。12 時だって!!)

わたし、命ってものには、それほどしゅう着してないんだけど（注：独自のしゅう教概念による)、

記憶と 地球の未来ってものに対してはすごいのね。だから今考えてる話しを全部書いて

これから地球に起るであろう事件に対してさらにいろいろ考えて、書いて、発表するまで

死にたくないのよ。魂の行き場ってものには自分なりの考えがあるし、そう信じてるけど、

サキやマーシャたちと別れたくない!! 今考えてることが消えてわたし自身もほかの

だれも覚えていてくれないなんて...（ 現在の「わたし」の存在を未来の「わたし」が

覚えていないということ ）ああ、時の流れって ざんこくだわ。わかっているけどわりきれない。

明日（あす）の考え方をつかむためには今の記憶は（最終的な目的に関して）不必要だって

知ってはいるけど..... 忘れるのは まだがまんできるわ。でも忘れられて「時」に消え

果てるってのは（そりゃこの宇宙全体が消えれば別だけど）ぜったいに イヤ !!

ゾクッとするのよ奈落のふちにいるみたいで恐ろしくて。（今現在のわたしの存在って

なんだろ。時の輪の一つ？ 成長のかていの一段階？）だいいち「わたし」が忘れられるって

ことは「わたし」につながるサキやマーシャやみんなの想いの行き場がなくなるってことじゃない。

だから「わたし」は ちょうど『木陰の家』の小人たちの世話をうけつぐように みんなの想い

の新しい居場所を作ってやらなきゃならないのよ。）だからわたしは形あるもの

そして「想い」を「**ここ**」に 残して行きたいの。わたしがナルニアを読んだように

だれかが 受けつぎ、育てていってくれるよう.....。この「想い」をここで消すなんて

いやだわ。マンガになるか本になるか、ともかく **書いて残したいのよ**。

それがわたしの「仕事」だと思うし、わたしに与えられた天分はフルに活用

したいわ。（ああ、ほら。**今書こうとしたものをもう忘れているじゃない** 。）

「わたし」は まあ忘れられてもしかたないかもしれないわ。「記憶」はなくても

「わたし」の心は 生きつづけ成長しつづけるんだもの。でもサキやマーシャは人魚姫みたいに

死ねば（わすれられれば）海の泡になるしかないんだから、それにかのじょらが 成長しつづけるには

だれかの心を媒体にしなけりゃならない。（あ、さっき書こうとしたこと思い出した。

わたしの彼女らに対する感情は、死ぬ時に「どうかこの子だけでも.....。」って言う

母親の愛情に 似てるなって思ったのよ）住み家がなくちゃ暮らせない、のよ。

.....ああ、長寿人になりたいわ。**残すまで死にたくない**。ううん

絶対に死ねない。(早く受験 切り抜けて 書き始めよう。）それがわたしにとって

最大の「 やらなけりゃいけないこと 」だわ。

それに「書く」ことによってより深く「考える」ことができるし、考えればそれだけ

「近づく」でしょう。そして「書いたもの」を「だれか」わたしと同じ心を持っている

人が読めば、今のわたしのように「成長」の 栄養にすることが できるかもしれない。

(案外、いつか「わたし」自身だって「読んで」**再び**彼女たちと「出会う」ことが

できるかも しれない。

だだ長く書いたけど、ようするに そういうことなの。

できれば彼女たちだけでなく現在の「わたし」自身の考え方も書き残したいわ。たとえばこの文。

（なんてじゃまっけな高校受験!!）

考えてみると人間の一生とその中で自由に使える時間っておそろしく短いわね。

長いこと時間つぶして ごめんなさい。

ｔｏ 未来の わたしへ

from わたし、１４才

※ マーシャやサキ ＞ https://puboo.jp/book/20017

覚えているよ。ちゃんと、歩き続けているよ.....。（@ 2011.02.15.）

奥付

奥付

春まだき（3）

../../book/20552

: 著者

柊実 真紅
（とうみ・まこ）

as

霧樹里守 is 土岐真扉

著者プロフィール：../../users/masatotoki/profile

感想はこちらのコメントへ
../../book/20552

電子書籍プラットフォーム：パブー（https://puboo.jp/）
運営会社：株式会社トゥ・ディファクト

春まだき　（３）

著　　霧樹 里守（きりぎ・りす）

制　作　Puboo
発行所　デザインエッグ株式会社